

今年こそは

ホームガス課 山岡 高志

皆さん、毎年恒例の家族の行事はありますか？

私は家族で4、5年程前から毎年4月の後半からゴールデンウィーク頃の大潮、中潮の日に津市の御殿場海岸に潮干狩りに行っています。

夜が明ける前に出発して夜明けとともに場所取りをし、潮が引き始めると誰よりも先に掘り始めるのですが、いまだに一つも持ち帰れる大きさのハマグリを採ったことがありません。

この負のループを断ち切るために去年は、毎年行っている上司にコツや採れる場所を聞いて行ったのですが、それでもダメでした。

ネットや動画などでコツ等を色々調べてから行ってるのですが、掘れども全く採れません。

ここから少し、御殿場海岸の潮干狩りの紹介をします。

御殿場海岸は、無料で潮干狩りが出来る数少ない貴重な場所です。無料で出来るのですが、ルールや禁止事項があります。

① 網やカゴが付いた道具（じょれん）等は使用禁止

② ポンプ等を用いた採捕の禁止

③ 全長2cm以下のあさり、全長3cm以下のハマグリは採捕禁止

④ 稚貝保護の観点からヤス（モリ）の使用はお控えくださいとあります。

これらのルールを守っていれば、潮干狩りが楽しめます。

三重県内の沿岸は、御殿場以外の県内のほぼ全ての沿岸に漁業法に基づき共同漁業権が設定されています。つまり、ほぼ御殿場海岸のみ潮干狩りができて、しかも入浜料、採貝料は無し、ということなのです。

駐車場も市営の無料駐車場もあります（シーズンはAM5:00から駐車場が開きますが、5:00の時点でかなりの台数が順番待ちしてますので要注意！）。

さて、ここからは本命のハマグリについてです。ハマグリは潮が引いて現れたばかりの干潟の中ほど～海側の湿った砂地の砂の5～10cmほどの深さに多く潜んでいるとのこと。

今年こそは必ずハマグリをゲットしたいので、去年より少し早い4月中旬に行こうかと考えています。

毎年、採れた貝をネットに入れて歩いている人を見るたびに子供に「今年もアカンかったな」と言われているので、早めの時期に行けば、少しはチャンスがあるかなと思っています。

今年こそは、帰りに空のクーラーボックスを片手に海の家でハマグリを食べるのではなく、自宅で自分達が採ったハマグリを食べる予定です。

三重県にお住まいの方でしたら一度は行かれたことがあると思う御殿場海岸潮干狩り、今年のゴールデンウィークにどうですか？



アポロ新聞

インコがかわいい！

総務課 宇都宮 千怜

私はセキセイインコを2羽飼っています。子供が飼いたい！と言いだし迎えることになりました。鳥って意思の疎通とか出来なさそうだなと最初は思っていたのですが、迎えた日に驚いたのは香りです。びっくりするくらい良い香りがします。例えるなら、洗濯洗剤の香り。え？なにこの子・・・いいにおい、からどんどん沼っていきました。

インコの可愛いところは、まずなんといっても「表情の豊かさ」です。くりくりした丸い目がきらきら動き、首をかしげながらこちらを見つめる仕草は、それだけで心がほぐれます。言葉が通じないはずなのに、まるで会話をしているかのようなタイミングで鳴いたり、相づちのような声を出したりするのも魅力のひとつです。

次に可愛いのは、感情がとても分かりやすいところ。うれしいときは羽をふわっと膨らませて体をゆらゆらさせたり、くちばしをカチカチ鳴らしたりします。安心しているときには目を細めてうとうとし、信頼している相手の前では片足で立ってリラックスする姿も見せてくれます。その小さな体で一生懸命に気持ちを表現する姿は、見るだけで愛おしくなります。

そして、甘えん坊な一面もたまりません。肩や頭にちょこんと乗って離れなかったり、指を近づけると自分から寄ってきたり。お気に入りの人の姿が見えなくなると探すように鳴くこともあります。小さな存在なのに、まっすぐな愛情を向けてくれるところがインコの大きな魅力です。それにちゃんと（当たり前ですが）あたたかいんです！ 素足？で手に乗られると40度くらいのあたたかさを感じます。

さらに、インコはとても賢い鳥です。種類によっては言葉をまねしたり、簡単な芸を覚えたりもします。名前を呼ぶと返事をしたり、好きな音楽に合わせて体を揺らしたりする姿は、まるで小さなパフォーマーのようです。毎日少しずつ成長していく様子を見るのも、飼い主にとっては大きな喜びになります。

羽の色の美しさも忘れてはいけません。鮮やかな緑や青、黄色など、種類ごとに個性豊かな色合いを持っています。光に当たるとふんわりと輝く羽は、とても繊細でやわらかそう。見た目の華やかさと、触れたときのあたたかさのギャップも魅力です。

最後に、インコの可愛さは「一緒に暮らすほど増していく」ところにあります。毎日の何気ないしぐさや鳴き声が、少しずつ特別なものになっていきます。小さな体で一生懸命に生き、喜びも甘えも全力で表現してくれる存在。それがインコの、何よりの可愛さなのです。

